

アサヒビールの取組について

—グループ内、キリン社との取組—

Logistics Action of Asahi

井石明伸：アサヒビール株式会社 物流システム部 副部長

略 歴

平成11年アサヒビール入社、アサヒビジネスソリューションズ出向後、平成17年アサヒビール復職、物流システム部。

我々、アサヒビールの物流部門は、ビール類のみを扱っていた第1次中計（2000年～2003年）以前から、効率化を目的として、製造拠点であるビール工場から直接得意先へお届けできる体制を工場への設備投資等を行うことで構築してきました。現在では、ビール工場からの直送比率は90%を超えております。しかしながら、工場出荷に使用している大型車車輛での納品が困難な得意先やご注文頂ける発注量等から配送センター経由での小口配送を10%程度実施しております。

第2次中計では、洋酒・焼酎・ワイン等のビール類以外の取扱いを開始し、2007年より開始した第3次中計以降では、「グループ物流」をキーワードにアサヒ飲料、アサヒフードアンドヘルスケア社、和光堂社、エルビー社、天野実業社及び、昨年、グループに加わったカルピス社とも連携を図り、効率化を図ってきました。本年より、開始している第5次中計においても「グループ物流の更な

る推進」をテーマとしております。これまでのグループ各社との取組により、ボリュームメリット（物量）の獲得が効率化面、環境面に大きく寄与することがわかりました。

今回のキリンビール社との取組とは、小口配送における共同配送となります。小口配送は、ビール類単体時代から効率化を目指して取組、第2次中計以降、ビール類以外の洋酒・焼酎・ワインとの共同配送、グループ各社との共同配送を実施することでボリュームメリットを獲得し、効率化を図ってきました。そのような状況において、更なる効率化を目指し、グループ外へも領域を拡大し、取組を実施しました。具体的には、得意先までの配送距離の短縮・積載率の向上・車輛回転率の向上によるCO₂削減を目的とした、首都圏エリアでの両社の拠点の立地を活かした出荷拠点の相互利用となります。従来は、茨城工場を中心とした製造工場にて製造後、墨田配送センター、平和島配送センター、新宿配送センター、西多摩配送センターへ大型車車輛

にて、社内転送を行い、その後、小型車へ積替えを行い、配送センター近隣のエリアへ小口配送をしておりました。取組後は、麒麟社の首都圏にある3配送センターも活用し、得意先と配送センターとの距離を短縮し、麒麟社商品との共同配送を実施することで積載率の向上を図っております。例えば、東京都江東区の得意先であれば、従来は、墨田区にある墨田配送センターを活用し、当社は、配送をしておりました。取組後は、当社の製造工場から麒麟社の江東区にある東部配送センターを経由させることで配送先までの距離の短縮を図りました。

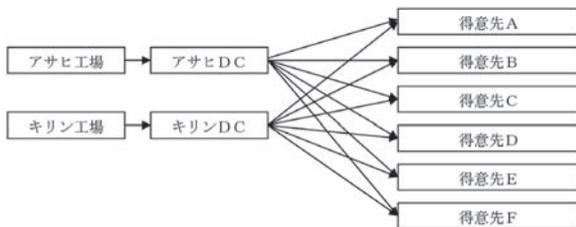
酸ガスボンベ、パレット)の回収についても当社容器と麒麟社容器を同一車輻にて回収することで空容器回収車の積載率を向上させ、車輻台数の削減を図り、環境負荷の低減を目指すテスト展開も実施しております。

今後も我々アサヒビールの物流部門は、さらなる効率化を目指し、新しいことにチャレンジしていきます。

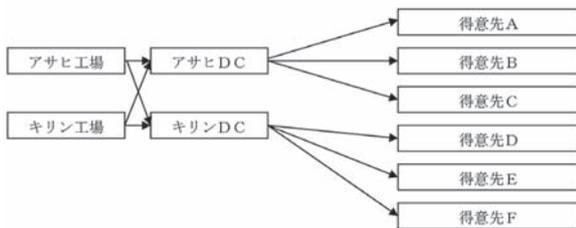
以上

具体的な取組イメージは以下の通り。

(従来：各社が個々に小口配送)



(現在：エリアごとに商品を集約して配送距離を短縮し、配送ロットを拡大)



本取組における定量効果は、麒麟社との合算でCO₂削減30%減(2012年実績、2010年比)となりました。

また、製品に必要な容器(空瓶、空樽、炭